

---

# 嗚呼、魅惑の、言い間違い聞き間違い

ミズキシホ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

嗚呼、魅惑の、言い間違い聞き間違い

### 【Nコード】

N6100C

### 【作者名】

ミズキシホ

### 【あらすじ】

忙しい職場で目を血走らせて働いているOLさんに叱られそうです。

以前勤めていた会社にて。  
アタクシ、しがな事務員でございました。

商品の品番とか型番。

例えば、こういの      B H    1 2 3 4

「ビー    エイチ    ハイフン    イチニサンヨン」です。

「サイフォン」ではありません。

もうかれこれ何年も、

その人が「サイフォン」と言っのを聞いているけれど、

誰も訂正できません。

もう聞き慣れたけど、

「ああ、またか」とは思うけれど、

笑いを必死で噛み殺す、なんてことは、  
もうないけれど、

「コーヒーでも飲もうかねえ。」

という気分にはなります。  
インスタントですけど。

ついでに、

「サイモン と ガーファンクル」

なんかも連想しちゃいます。  
なぜだろう、なぜかしら。

事務の仕事をしています。  
電話に出ることは多いです。

慣れるまでは、チヨイと大変です。

掛けてくるお客さんは、  
わたしが入りたてで、  
不慣れだということを知らないからです。

いろいろと大変な目にあいます。

声が小さくて聞き取りにくいとか。

なまっている、とか。  
なまっている、とか。  
なまっている、とか。

なおかつ、

早口だ、とか。（泣 当時

わたしは、  
「なまり早口聞き取り選手権」の特訓をうけていたのだろうか？  
と、思い煩ったことは一度や二度ではありません。

出場は果たさなかったけれど。

さらに、

倍率ドン！

名乗らない。

名前を聞くと、

怒る。

「いつも掛けてるだろ！！」

すみません…。

わたしは「初めまして」でしたが…。

ヒツジヨウーに聞き取りにくい声の人からの電話。

相手は、

「いつも掛けてるから」って感じで、  
名乗らないつもりです。

そこをなんとか、勇気を振り絞って聞きます。

「アノー、シツレイデスケレドモ、お名前を伺ってもよろしいですか？」

「オ…ボリです。」

「え？」

オサボリ　さんですか？」

しまった。

オサボリは、わたしだ。

OLは「オサボリ　レディ」の略だ。

「イエ、『オカボリ』ですっ。」

キツパリ、

ハッキリ、

かつ舌よく、

力いっぱい発言してくれました。

やればできるんじゃないの。

はじめからそうしてください。

初めてのところへ電話したとき。

初めてなので、少しテンパってました。

相手が出たら、

用件はああでこうで…。

シュミレーションしながら、

電話を掛けました。

電話のお相手：「ハイ、 産業です。」

わたし：「あ、 ××商事

だと思いますが。」

懐かしい…。

オサボリレディは、転んでもタダじゃあ起きません。

ネタになりました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6100c/>

---

嗚呼、魅惑の、言い間違い聞き間違い

2010年12月8日12時02分発行